

(2016-2017 年度)

## 第 1 回複合地区ライオンズクエスト委員長【ウェブ】連絡会議議事録

◎日 時： 2016 年 10 月 14 日（金）14:00-16:20

◎会議システム： OmuniJoin(オムニジョイン)フリートライアル版

◎出席者：

330 複合地区青少年・レオ・LQ委員長 飯田 善彦

331 複合地区ライオンズクエスト委員長 井ノ浦 義明

332 複合地区LQ・薬物乱用防止委員長 小池 總明

333 複合地区LQ・薬物乱用防止特別委員 瀬尾 佳三

335 複合地区ライオンズクエスト委員長 足達 靖彦

議長連絡会議世話人 安田 克樹

14:00、第1回ウェブ会議招集者の安田議長連絡会議世話人開会の言葉。

安田議長連絡会議世話人より「LQ普及の現状として、認定講師が少なく各地区が計画する開催日に実施不能。また費用が高い等々の意見がある。今後のLQの普及にあたり、まずLQの歴史や現状を押さえておく必要により本会議を開催した。」との挨拶がある。続いて各複合地区出席委員長等より自己紹介がある。

◎議 事：

### 1. 連絡会議世話人、副世話人の互選

出席者の協議により、MD335 足達委員長を世話人に互選し、副世話人に MD334 笠原委員長にお願いすることになった。しかし、本日欠席のため次回出席の際にお願いすることになった。

### 2. ライオンズクエスト・プログラムの歴史

・ライオンズクエスト・プログラムの歴史について認識の有無を確認したところ、出席の委員長各位は認識しているとのことで割愛した。

### 3. 各地区の現状

#### ①ワークショップ開催の現状

- ・330 複合地区：2006 年 7 月～2015 年 12 月にかけて、A 地区で 22 回開催したが、ギャビネット主体の開催である。B 地区は、日教組の関係から教員の姿勢が LQ に対し否定的であり、その要因から歴代ガバナーも取り組む姿勢が示されず停滞状況にある。過去 3 回ほど開催されたが単一クラブによるもので、これ以外に開催されていない。C 地区は、23 回開催され、単一クラブによる開催で A 地区とは対照的である。今後 A・B 地区については情報伝達に努め LQ の更なる普及に取り組む。
- ・331 複合地区：A 地区で年に 2 回～3 回の予定であり、まず 1 回目は終わっている。B 地区は 1 回、C 地区は 2 回の予定である。
- ・332 複合地区：10 年前から取り組んでいる。当時 B 地区の地区ガバナーが学校の校長先生でいち早く委員会を立ち上げ取り組んできた。しかし認定講師が少ない。また費用がかかるため多く開催出来ない。尚、中学校の校長先生等で NPO 法人を設立し受講者の名簿が管理されるようになった。その名簿をもとにホロアップワークショップを開催し、学校で取り組んでいただけるようお願いしている。

- ・333 複合地区：夏に開催する傾向が強く、すでにA地区で4回、B・C地区で6回、E地区で10回終わっている。またD地区は冬にLCIF交付金外で公募型を1回開催の予定である。今期E地区が伸びたのは、小倉委員長が地区ガバナーの折にE地区に働きかけたことが要因である。
- ・335 複合地区：A.B.D地区は、夏休みに今期予定の開催を全て終えている。現在各委員長は、次期開催の日程に取りかかっている。そのために教育委員会及び各学校へ開催の働きかけに努めている。  
尚、C地区は、年間を通し11回開催の予定であるため、当期の受講者勧誘に取り組んでいる。

## ②校内型ワークショップ開催およびLCIF交付金の申請の状況

- ・330 複合地区：校内型ワークショップは唯一C地区だけである。またLCIFの手続きはキャビネットを通じて行っている。
- ・331 複合地区では、A・C地区でキャビネット主体による手続きであり、唯一B地区がクラブ単独で手続きを行っている。
- ・332 複合地区：各地区の副委員長がクラブと折衝し合意に達したクラブがワークショップに参加する状況である。よっておのずからキャビネット主体の手続きとなっている。そこで332複合地区の今後の取り組みとして、ワークショップを受講した教員が各学校で実践してもらう事が肝要であるため、ある中学校の校長先生の協力のもとに受講者の名簿を作成し、学校で取り組んでいただけるよう今後の活動として捉えている。尚、本活動が今後の受講者増加に繋がるものと思慮している。
- ・333 複合地区では、キャビネット主体による手続きで、来年1月の公募型ワークショップのみクラブによる手続きとなっている。尚、キャビネット主体のワークショップは9割校内型である。
- ・335 複合地区：年に1回～2回程度校内型ワークショップで、クラブからの拠出による開催である。その他は、キャビネット主体のワークショップでLCIFの手続きもキャビネットが行っている。

## ③LQを学校で取り組んでいる現況

- ・330 複合地区：過去に暴力事件があり、その地域で学校自治最悪の中学校が存在し、教員がなすすべを失っていたところ、LQに遭遇し取り入れたところ、非常に落ち着きのある学校に変身した経緯がある。
  - ・331 複合地区：B地区で一校取り入れている。
  - ・332 複合地区：LQ担当教員が配置されている学校がある。総体的に受講するにとどまり、学校内では個人的に活用出来ているが、全体として取り組めていない。よってこの現象を少しでもなくす方策として、前述のNPO法人で受講者名簿の作成により受講教員への意識向上を図っている。
  - ・333 複合地区：B地区内の中学校で実施したところ、全校生徒の成績が伸びた現象が生じ、他校からも依頼があった。よってその地域の中学校全体で実施した経緯がある。
  - ・335 複合地区：各地区で校内型のワークショップが開催されているため、当該校では実施されている。特にC地区では、私学で三校取り入れている。
- \*総論：各複合地区で受講者の増加傾向が顕著である。反面、各校で数名の受講者では、学校全体を動かし取り組むことについて多難である。しかし、個人としては、担当クラス・担当クラブ・担当教科で取り組んでいる。

## ④LQ活用の留意点

- ・330 複合地区：今どきの教員の姿勢がサラリーマン化している。よってLQの趣旨の理解向上がより不可欠である。

- ・331 複合地区：受講者の数字は伸びている。しかし、実際に活用されている実態数が見えない。把握する必要がある。
- ・332 複合地区：学校で取り組むについては、教育課程（カリキュラム）が存在しており至難の業である。そこで校長先生へLQの理解向上に努めるべきである。宮城県では、当初県教育委員会がLQに高い理解を持ってもらったため県内の市町村教育委員会にも前向きに捉えてもらっている。よって校長先生へのアプローチ、教育委員会の理解度の向上が不可欠である。
- ・333 複合地区：更なる理解度の向上と活用実態の把握が必要である。
- ・335 複合地区：現在教員の置かれている環境は、校内暴力、いじめ、保護者クレーム、電子機器普及による弊害等々の対応が、昔と比較し急増している。また全国各地で問題行動が発生すれば、全国で共有すべき事案として捉えなければならない環境にあるため、本来の業務である授業以外の業務が増加し、心身ともに病む教員が増えている。よってLQの良さを理解しつつも実行に移す難しさがある。また数名の受講者で学校を動かすのは不可能な環境にある。反面明るい日差しとして、京都では、京都教育大学のカリキュラムに取り入れられており、LQを理解した学生が教員となり自然的に何らかの形で普及することを願っている。

#### ⑤JIYDへの要望

- ・330 複合地区：費用がかかることは理解している。そのためキャビネット主体となっている。クラブ単位で開催出来るようにするには費用の面で考慮を望む。LCIFへの要望として費用の負担をLCIF90%クラブ10%のような割合にならないか。
- ・331 複合地区：ワークショップ開催にあたりすべてJIYDに任せきりである。今後我々サイドで出来るようにしなければならないと思慮している。（要望でなく反省を含め）
- ・332 複合地区：認定講師が少ないため開催を希望する日程に出来ない場合がある。認定講師の増加を望む。ワークショップを実施すればするほど費用がかかる。費用の削減を図っていただくと更に普及が推進する。東北福祉大学でレオ活動を容認してもらった。教育関係に進む学生が多く在籍しているのでLQも容認していただけるよう取り組みたい。
- ・333 複合地区：認定講師と説明員の区別を理解した。（要望でないが）
- ・335 複合地区：今後JIYD関係者と懇談を持つ予定である。その際に意思疎通を図る所存である。

#### \* 安田議長会連絡会議世話人の言葉

- ・国際協会のアンケートは各複合地区でまとめている。各複合地区で参考のこと。
- ・330 複合地区要望のLCIF交付金の比率LCIF90%クラブ10%の件は、国際理事に聞いてみる。
- ・議案にある「LCIFとJIYDとの関係について」の項目の質問があり、足達世話人から現状の説明が施された。

#### 4. 次回会議

次回の会議は、来年1月ごろ開催とし、日程は各委員長にアンケートのうえ決定する。

16:20、足達世話人より閉会の言葉。

以上